

日本のごみ問題を考えよう

私たちの毎日の生活から出るごみは「一般廃棄物」と呼ばれ、日本ではその約 8 割が焼却炉で処理されているそうです。焼却によってごみの量は減りますが、燃やした後には焼却灰が残り、最終処分場（埋立地）で処分されています。

しかし、この最終処分場は全国的に残り容量が限られており、新たに建設することも容易ではありません。このままごみを出し続けると、いずれ処分する場所が足りなくなるという深刻な問題に直面しています。

毎日どれくらいのごみを出している？

環境省の調査によると、日本では 1 人 1 日当たり約 850g のごみを出しているとされています。これは、500ml のペットボトル約 1.5～2 本分の重さに相当します。

効果的な対策は？

ごみ問題で最も効果的な対策は、ごみそのものを減らすことです。リサイクルは重要ですが、その前に「ごみを出さない」「増やさない」という意識が欠かせません。

- ✓ 使い捨てを減らす
- ✓ 必要な分だけ使う
- ✓ 長く使えるものを選ぶ

こうした選択は、環境への負荷を減らすだけでなく、廃棄物処理コストの削減にもつながります。企業のオフィスでも、紙、プラスチック容器、飲料容器、備品類など、少しの意識で減らせるものは少なくありません。また、正しく分別されたごみは再び資源として活用されますが、分別が不十分だとリサイクルできず、焼却処理に回ってしまいます。

自宅やオフィスで今日からできる行動チェックリスト

- 必要以上に印刷せず、電子データを活用している
- コピー用紙は両面使用を心がけている
- マイボトル・マイカップを利用している
- 使い捨てではなく、繰り返し使える備品を選んでいる
- 資源ごみをルール通り正しく分別している
- 分別に迷った際、そのまま捨てず確認している
- 不要なものを「捨てる」前に、再利用を考えている



ごみ問題は、私たち一人ひとりの暮らしと深く関わっています。日々のちょっとした意識や行動の積み重ねが、未来の環境を守ることにつながりますね。

出典：環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(令和5年度)について」